

2024年9月18日
株式会社SVPジャパン

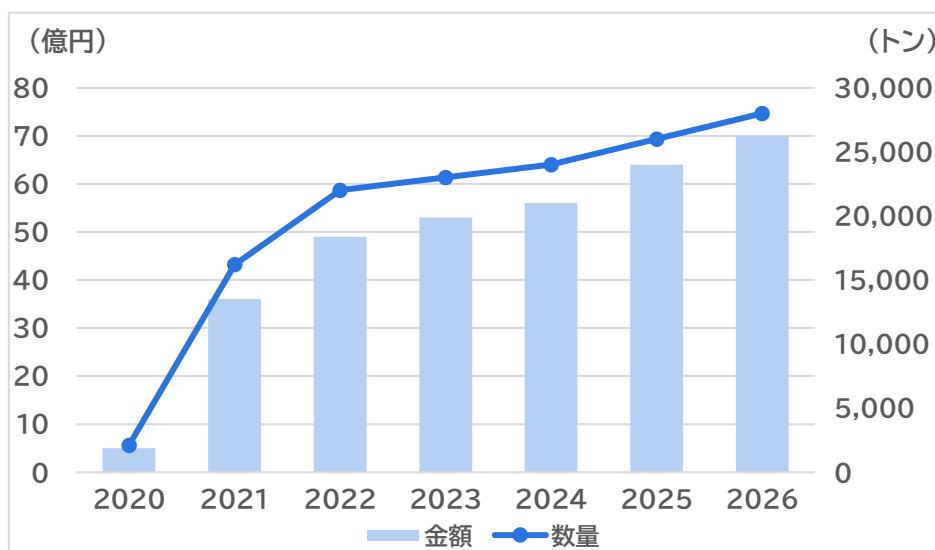
SVP注目市場分析 「ケミカルリサイクル・プラスチック」を公開

～新たなリサイクル技術がもたらす可能性～



会員制マーケットリサーチサービスを提供している、株式会社SVPジャパン（本社：東京都中央区、代表取締役社長：橋本 雅、以下「SVPジャパン」）は、本日、SVP注目市場分析レポート「ケミカルリサイクル・プラスチック-国内市場の現状と将来展望-」を、会員企業向けに公開いたしました。

■ ケミカルリサイクル・プラスチックの国内市場



プラスチック廃棄物による環境汚染への対策として、日本ではマテリアルリサイクル（使用済みのペットボトルなどを物理的に破碎して材料に戻す）が主流だったが、近年はプラスチックを化学的に分解して再利用する「ケミカルリサイクル」が注目されている。

2023年の市場規模は約2万3,000トン、53億円と推定され、PETのリサイクルが90%以上を占めており、その他が、廃棄されるポリエステルやナイロン繊維のリサイクルとなっている。現在のケミカルリサイクル・プラスチックの市場規模は、マテリアルリサイクル・プラスチック（2023年・推定63万トン）に比べ、3～4%と小規模に留まっている。しかし、今後は技術開発、生産能力の拡大とともに、ケミカルリサイクル・プラスチックの市場が長期的に、大きく拡大していくと予測される。

■ケミカルリサイクル・プラスチックの市場概況

ケミカルリサイクル技術は、2000年代初頭に事業化されていたが、原料調達や市場の変化により一時停滞していた。しかし、2017年に使用済みプラスチックの最大の輸出先であった中国で輸入が禁止されたこと、国内で再生材料の利用への関心が高まったことから、2021年から本格的な商用生産が再開されている。また、繊維業界でも環境配慮型素材の1つとして、ポリエステルやナイロン繊維のケミカルリサイクルが行われており、今後の市場の拡大が期待されている。

一方で参入企業は、ペトリファインテクノロジーが90%近くのシェアを占め、他にJEPLANや東レが市場をリードしている。今後も多くの企業が技術開発やリサイクルプロジェクトに参入することで、市場規模が拡大していくだろう。



■本レポートの構成

- I. 市場の定義
- II. 市場動向
- III. 市場規模・予測
- IV. マーケットシェア
- V. 参入企業の動向
- VI. 業界構造



←レポート全編を見る クリック
※本サービスのご利用は、
SVP会員様限定でございます。

■購読について/資料ダウンロード・お問い合わせ

本サービスのご利用は、SVP会員様限定でございます。
購読をご希望の場合、当社SVP会員になっていただきますと、定期的に配信する市場調査レポートを全てご購入いただけます。なお、SVP会員は、ビジネス調査に関する、クイックリサーチとプロジェクトリサーチもご利用いただけます。

資料請求



お問い合わせ



■ 次回のテーマ

10月のテーマは「カーシェアリング」と「タクシー配車サービス」を予定しています。

～SVP注目市場分析レポート更新スケジュール…毎月第1・第3水曜日の発刊を予定～

[会社概要]

社名 : 株式会社SVPジャパン
代表取締役 : 橋本 雅
所在地 : 東京都中央区日本橋蛸殻町1-38-9 宮前ビル2F
設立年月日 : 1974年7月1日
事業内容 : 会員制のビジネス情報提供サービス
URL : <https://www.svpjapan.com/>

[本プレスリリースに関するお問い合わせ先]

株式会社SVPジャパン DX推進部 デジタルマーケティング課
info@svpjapan.com